



朝倉ゆめまる


---

平成29年度

---

# 重要要望書

---

 福井市

福井市政の推進につきましては、日ごろから格別のご指導とご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

本市では、平成24年度から進めてきた第六次福井市総合計画のまちづくりが総仕上げの年となります。

今年3月に福井駅西口広場が完成し、福井鉄道の駅前延伸による福井駅と新設されたバスターミナルが供用されました。また、福井鉄道とえちぜん鉄道の相互乗り入れも開始され、交通結節機能が向上し、公共交通機関のネットワークが広がりました。

さらに、4月には県都の新たなランドマークである福井駅西口再開発ビル「ハピリン」がグランドオープンし、県内外から多くの人々が訪れ、エリア全体が大きく活気づき、北陸新幹線福井開業に向けて市民の期待は高まってきています。

現在、本市では平成29年度から平成33年度のまちづくり計画である第七次総合計画の策定に取り組んでおりますが、この5年間は本市にとって大きな転換期となります。

平成30年度開催の「福井しあわせ元気」国体・障害者スポーツ大会をはじめ、31年度の中核市への移行など、これらの転機を好機と捉え、確実に活かしていくとともに、新幹線福井開業を見据えた取組や全国喫緊の課題である人口減少の克服も必要であります。

そこで第七次総合計画では、前計画の理念を受け継ぎつつ、昨年策定した「福井市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略」の施策を踏まえ、新たに「みんなが輝く 全国に誇れる ふくい」を将来都市像として掲げました。子どもから高齢者まで、すべての市民が、安全・安心な環境のもと、本市に誇りを持って、将来にわたる豊かな生活と本市に輝く未来を描くことが出来るよう、全力で取り組んでまいります。

つきましては、本重要要望書に掲げた事項について、平成29年度の予算編成及び政策決定などにおきまして、特段のご配慮をいただきますよう、よろしく願い申し上げます。

平成28年 7月

東村新一

## 中核市移行に対する支援について

本格的な人口減少社会に突入し、今後は加速度的に人口が減少することが予想される中、県都としての本市の役割はますます大きくなっています。このような中、地方創生や地方分権などに的確に対応しつつ、地域の更なる発展につながる機会を確実に活かすことが重要です。

このため、本市は平成31年4月に中核市へ移行し、これにより移譲される事務権限を活かすことで、人口減少社会や地域間競争に打ち勝つ活力ある地域づくりを実現させるとともに、周辺市町との連携を深めることによる広域的な発展を目指しています。

中核市への移行にあたっては、移譲される事務や権限の内容を十分に理解し、それらを効率的で効果的な市政運営につなげるため、市民生活や行政組織、財政影響などあらゆる観点から、十分な検討を行う必要があります。

現在、県のご支援をいただきながら、移譲事務に関する協議を進めており、移行にあたって解決すべき課題やその対応策について検討を行っているところです。

今後も県との連携を密にして、円滑な中核市移行に向けた準備を進めてまいりたいと考えておりますので、更なるご支援をお願いするとともに、特に次の事項について、強く要望します。

- (1) 市民サービスの向上や事務の効率化につながる幅広い事務権限の移譲〈県〉
- (2) 移譲事務に従事する専門職員育成のための人事交流〈県〉
- (3) 市保健所としての福井健康福祉センター施設の利用〈県〉